



加島五千石総鎮守 米之宮浅間神社

社報

令和7年
秋号

11月1日発行



米之宮浅間神社

遷座祭

日時：令和7年十一月二十八日（金）
十七時 斎行

遷座祭：社殿の修築に際し、大神様の御神体をお遷しする神事です。今回は、仮の社殿へお遷ししてある御神体を、本米の社殿へとお戻しする正大掛かりな社殿の修築は、数十年、百年に一度のもので、この遷座祭は大変珍しい神事ですので、見学希望の方は是非ご自由にご参列下さい。



試験 合格祈願祭

十二月六日（土）



境内社
延寿宮 天満宮

受付 午前八時半
祈禱 午前九時
祈祷料 三千円

受験・資格・昇級昇段試験他 天満宮お札・御守り付
〆切り：十二月五日迄 定員三十名まで受付中！

電話 ○五四五・六一 ○八一七
FAX ○五四五・六一 ○八一九

各地に記録的な猛暑をもたらした夏も過ぎ、日を追うごとに、夜半の風に秋の気配を感じるようになりました。

「二季」になってしまったとのニュースも耳にします。特に米作りと共に歩んできた日本人にとって、その年の実りを戴く「秋」は、物質的にも、精神的にも無くてはならない季節であります。米不足に関する報道の飛び交った本年。実りの秋を迎えるにあたり、今一度恵みを戴ける尊さに思いを致し、日々を過ごしてゆきたいものです。

さて、今年の秋分は九月二十三日。これより徐々に夜も長くなつて参りますが、所謂「SNS疲れ」や「デジタルデトックス」といった言葉が聞かれる昨今、この「秋の夜長」に心落ち着ける時間を設けてみるのも良いのではないでしょうか。この秋は読書、と心を決めてらっしゃる方も居られるかもしれません、ここで大正天皇の御製を一句、御紹介致します。

秋夜漫漫意自如
(秋の夜は長く 心穏やかに過ごす)

西堂点滴雨声疎
(西堂には雨だれの音が間遠に聞こえる)

座中偏覚多涼氣
(あたりは次第に涼しさを増す)

一穂燈光繙古書
(燈火一つの下 古典を読む)

生涯で一、三六七句、歴代天皇の中でも最多の漢詩を残された

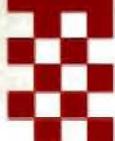
大正天皇が大正三年、「秋夜読書」と題し詠

まれた句です。秋深まる情景の中、古典に親しまれるお姿が生き生きと浮かび上がります。

『古事記』や『日本書紀』といった、神道と関わりの深い古典も、今は読みやすく解説されたものも多数出版されていますから、この機に手に取つてみるのも良いでしょう。



秋の夜長を愉しむ



「秋」の語源と神道

「秋・あき」という言葉は、「あき食いの祭り」からきているともいわれています。

「飽きるほど食べ喜ぶ」、すなわち思う存分に食べる喜びとは、稻の収穫を神様に捧げるとともに、自分たちも共に食し、満腹の喜びに浸るといった、収穫祭の喜びを表しています。

このほか、「秋」や「飽」の字は「速秋津

比売神」や「飽咲之宇斯能神」など、

『古事記』や『日本書紀』の

中で、罪穢れを大きな口で飲み込む神の名や、供物や食べ物に関連する神名にも表されてきました。



初穂を捧げる

神社のお祭りでは、新穀は特別な意味を持ちます。殊に、伊勢の神宮で斎行される神嘗祭は、年間一、五〇〇回に及ぶ神宮の恒例祭の中でも最も重要なお祭りとされ、諸神に先立ち天照大御神に新穀を捧げ、御恵みに感謝します。天皇陛下には、皇居・御田でお育てになられた御稻穂を、御初穂として神宮に御献進され、両正宮の内玉垣に奉懸されます。また、内玉垣には全国の農家が奉獻した稻穂も懸けられ、これは懸税と呼ばれます。

絵馬とは

私たちが神社に参拝したとき、祈願の内容を絵馬に記して奉納しますが、元々、祈雨止雨などの祈願のために本物の馬をお供えしていたことに由来します。馬は人々の生活に深い繋がりを持っており、輸送や農耕、軍用などあらゆる面で大きな役割を果たしてきました。このことは馬の信仰とも結び付き、例えば聖なる「陽」の動物である白馬を見ればその年の邪気を祓うことができる」と考えられ、平安時代に宮中で行われた、白馬節会という行事があります。こうした信仰に関連し、神様の乗り物『神馬』として献上されました。その後、馬の代用として馬の像や絵が奉納され、時代や人々の願いとともに、祭礼の模様や干支など様々な絵柄が描かれるようになりました。



もっとくわしく「神社・神道」

全国約八万の神社を包括する神社本庁、また全国の神社総代で組織する全国神社総代会では、神社神道、そして祝日や日本の年中行事を紹介したホームページを開設しています。更に知りたい!という方は是非ご覧ください。



神社本庁ホームページ



楽しく学べる神社のページ

「お宮キッズ」

神社では、家内安全・身体健全・商売繁盛・初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願・交通安全・旅行安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願・厄祓い・病気平癒・心願成就・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々なご祈願を受付けています。いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。ご祈願についてのお問合せは神社まで

連絡先 **米之宮浅間神社** 社務所

〒四一六一〇九〇六

静岡県富士市本市場五八二

☎〇五四五(六二〇)八一七
〇〇五四五(六二〇)八二九

